

3.2 個体の樹木測定

個体の樹木測定は、楠広場内に生育するすべての樹木(表 3)を対象とし、樹高及び胸高直径を計測した(図-3.2.1)。

樹高は地上から最大の高さにある葉から付け根までとし、伸縮式メジャーポール(図-3.2.2)で測定した。伸縮式メジャーポールは最大 5.3m まで計測できるため、5.3m 以上の個体は伸縮式メジャーを最大まで伸ばし、そこから何 m あるか目測で測定した。測定は 0.1m の単位まで行った。

胸高直径の測定部は地面からの高さ 1.2m とした。樹高が 1.2m に満たない個体については、胸高直径の測定は行わず、値 0 として表記した。幹本数が 2 本以上ある個体は最も太い幹の胸高直径を計測した。測定は巻き尺(図-3.2.3)を用いて行った。

また、樹高、胸高直径の結果から形状比を算出した。

形状比は次式(1)によって算出した。

$$\text{形状比} = \text{樹高}(m) / \text{胸高直径}(m) \quad (1)$$

胸高直径および樹高は図-3.2.4 に示す位置を測定した。

調査日は 2021 年 5 月 23 日、6 月 1 日、8 月 26 日、9 月 10 日、10 月 8 日、10 月 26 日、11 月 9 日、11 月 13 日、11 月 16 日、11 月 26 日、2022 年 1 月 12 日、1 月 18 日とした。

また、2020 年度調査の富浜緑地に共通して生育している樹種の樹高や形状比と比較を行うことで、同じ臨海部埋立地であるが、使用目的や植栽のされ方が違う緑地での樹高や形状比の差を考察した。



図-3.2.1 伸縮性メジャーポールと巻き尺を用いた測定の様子



図-3.2.2 伸縮式メジャーポール



図-3.2.3 巻き尺